

三月は季節の変わり目です。気温の変化が顕著で、体調を崩す人も少なくないようです。体調を崩した時には、「病気は自然の注意」と前向きに受け止めて、健康管理がずさんになつていないか、食事のあり方はどうか、生活が不規則になつていないかなど、自身の生活を誠実に振り返りたいものです。

併せて、心の状態にも目を向けましょう。人に対して腹を立てていないか、嫌々ながら働いていないか、家庭の問題をそのままにしていけないかなど、マイナスイな感情を心に溜めておくと、それは体に表われます。なぜなら、肉体は心の象徴だからです。

「頭が高い」「腰が低い」「鼻高々だ」といった言葉は、それぞれ「横柄である」「へりくだつている」「誇らしい」という様子を表現しています。これらの言葉は、心の様相が肉体に連なることを表現しています。

女性ファッションモデルのFさんは、ある日の朝、いつものように起きると声が出ないことに気がつきました。後日、それが「失声症」という病気だと知り、倫理研究所研究員に倫理指導を受けることにしたのです。筆談で状況を説明すると、研究員は「声が出なくなつた前日、何か腹を立てるような出来事がありましたか？」と彼女に聞きました。Fさんには、ひとつ心当たりがありました。両親と喧嘩をしたのです。Fさんはその日、結婚を決めた男性を両親に紹介し、結婚の意志を告げたのですが、両親は結婚に反対をしました。男性は当時、無職であり、彼女のほうもモデル業をしているとはいえ、いつまで安定した収入が続くか分からない状態です。そのため「彼が就職するまでは結婚は認められない」という言い分でした。



絵・わたなべじゅんじ

## 肉体が発する声に 真摯に耳を傾ける

そのことをきつかけに両親と激しい口論となり、喧嘩をしたまま寢床に就くと、その翌朝から声が出なくなつたのです。

その事実を研究員に伝えると、その時にFさんは、もう両親と口を利きたくないと思つたのではないですか？ そのことを肉体が表わしているんですよ」と言いました。そして「ご両親が結婚を反対したのも、Fさんの幸せを思つてのことですから、まずはご両親の話をしっかりと聞いて、そして謝罪をしてください。ただし、今のあなたは声が出ないから、手をつけて心の中で『お父さん、お母さん、わがままな娘でごめんなさい』と唱えてください」と言葉を続けたのです。

Fさんは早速そのことを実践しました。両親の前に手をつき、頭を下げ、心の中で謝罪の言葉を唱えようとすると、「お父さん、お母さん、わがままな娘でごめんなさい」という言葉がハツキリと口から出たのです。

その後、Fさんはその男性と結婚をするこゝととなります。両親と話し合った上で、「彼が就職するまで結婚しない」ということを決めた途端、男性の就職が決まつたのです。

結果として、彼女は声が出なくなつたおかげで、両親と冷静に話し合うことができ、円満な結末を迎えられました。失声症が「両親と仲直りをしなさい。そうすれば結婚も良い方向に向かいますよ」と教えてくれたのです。「汗」は体温調節、「発熱」は殺菌など、肉体のすべての営みは、その人を良くするために行なわれています。病気もまた、その人を正しい生活へと引き戻してくれる、ありがたい大自然からの注意です。感謝して受け止め、明るいい心で生活をする時、必ずや肉体は自然に回復の方向へと向かつていくでしょう。